

屋久島森林管理署交渉(全国林野関連労働組合屋久島森林管理署分会)

議 事 要 旨

1 日 時 平成26年 4月15日(火) 18:00~19:00(60分)

2 場 所 屋久島森林管理署 会議室

3 出席者 屋久島森林管理署 樋口 浩 署長  
同 荒木 政明 次長  
同 和田 誠二 総括事務管理官

全国林野関連労働組合屋久島森林管理署分会

同 久保田 利郎 執行委員長  
同 坂梨 哲章 副執行委員長  
同 阿南 達也 書記長

4 交渉概要

- (1) 平成26年度の事業方針について
- (2) 平成26年度における円滑な業務運営の確保について
- (3) 現場管理業務の実施体制について
- (4) 林業事業体の育成について
- (5) 事務・業務改善について
- (6) 主伐・再造林の拡大等など今後の円滑な実施について
- (7) 安全・健康管理対策の充実について
- (8) 庁舎・宿舍等の整備について
- (9) 車両の更新について

- (1) 平成26年度の事業方針について

組合) 業務の偏りから特定の職員に業務が集中し超過勤務の増加に繋がっているが、職員の勤務条件が低下することのないようお願いする。

当局) 業務が特定の者に集中しないよう連携・応援体制を整えるなど、管理者等がリーダーシップを発揮しつつ、円滑な事業実施に努めて勤務条件が低下しないよう図って参りたい。

- (2) 平成26年度における円滑な業務運営の確保について

組合) 当署において、森林整備官(土木)1名が減となったが業務過多とならないよう検討すべきではないか。

当局) 当署の職場実態を踏まえ、業務内容を把握し、特定の者へ集中することがないよう目配りを行い、連携・応援体制を整えることも含め、円滑な業務運営となるよう努めて参りたい。

組合) 早く帰る雰囲気作り、的確な超勤命令行為、指導の徹底をお願いする。

当局) 的確な超勤命令行為、指導の徹底、声かけ等による早く帰れるような雰囲気作りに努めて参りたい。

### (3) 現場管理業務の実施体制について

組合) 南種子森林事務所は森林官がいなくなり、離島という特性もあり、応援態勢もとれない状況の中で、西之表森林官に負担がかかり勤務条件が大きく低下しているが、どのように考えているのか。

当局) 現場実態・業務実態を把握し、勤務条件が低下しないよう、署全体の連携・応援体制を整えることも含め、円滑な業務運営となるよう努めて参りたい。

### (4) 林業事業体の育成について

組合) 請負事業体の育成が進まなければ、職員の請負事業体への監督・指導等事業遂行に負担となるがどうか。

当局) 事業体等が参加する会議、研修会等の開催を通じ、事業体の体質強化等の取組を進めて参りたい。

### (5) 事務・業務改善について

組合) 一般会計化に伴い各種事務手続き等の変更もあり、煩雑化している。抜本的な見直しや事務処理の改善化を図るなど職員の負担軽減に努めること。

当局) 職場実態に照らし、非効率な部分がある場合は、事務・業務改善の積み上げ等を行いつつ進めて参りたい。

### (6) 主伐・再造林の拡大等など今後の円滑な実施について

組合) 今後、主伐が増えるということであるが、収穫調査の負担が大きくなり勤務条件の低下とならないよう森林整備の円滑な実施及び職員の安全からも林道の整備に努められたい。

当局) 収穫調査については、調査方法の簡素化を図ったり、標準地調査等応援体制を図って参りたい。また、森林整備及び林道整備について、予算事情もあるが、安全が確保されるよう円滑な実施に努めて参りたい。

### (7) 安全・健康管理対策の充実について

組合) 合同森林事務所では、職員の負担があるので気配り、目配りを実施してもらいたい。

当局) 特に、合同森林事務所については、機会あるごとに、職員との疎通を図り状況把

握に努め、心の健康づくりを含めた気配りを行いつつ、円滑な業務運営となるよう対処して参りたい。

(8) 庁舎・宿舎等の整備について

組合) 廃止対象宿舎が計画されており、宿舎が足りなくなることが予想されるが、どのように考えているのか。

当局) 今後の宿舎の新築については厳しい状況と聞いている。今後の宿舎新築の状況、公務員宿舎の状況を調べながら、当署の実態、屋久島の特殊性を上局に進達して参りたい。

組合) 宮之浦合同森林事務所は、庁舎や駐車場がせまいため官用車も置けない状況であり、安全上からも改善を図られたい。

当局) この件については、上部と疎通する中で、取り組める最善の方策を講じて参りたい。

(9) 車両の更新について

組合) 安全面からも、廃止予定車両も含め車両整備に努められたい。

当局) 効率的車両運用を図る中で、個別に修繕実績、使用年数、走行距離等を勘案し、廃止車両の検討も含めて総合的な観点から、車両整備に努めて参りたい。